

新川崎ふれあい公園“体験の森” 取り組みと課題

「持続可能な環境づくり」
都市に創られた里山（体験の森）の価値

千葉美佐子

新川崎ふれあい公園管理運営協議会 会長
NPO法人幸まちづくり研究会 理事長

活動場所：神奈川県川崎市幸区

鉄道操車場跡地の再開発で整備された都市公園

武蔵小杉方面

新川崎ふれあい公園の一角にある
植栽地が「体験の森」(1,300㎡)

夢見ヶ崎動物公園
(加瀬山6ha)

JR横須賀線
「新川崎駅」

JR南武線
「鹿島田駅」

JR貨物
新鶴見
機関区

「さいわいふるさと公園」
(1.8ha)

新川崎・創造のもり(約5ha)
産学管連携による新産業創出の拠点



「ふるさとの森をつくろう」

市民が育てた「苗木」86本持ち寄り植樹 (2011年11月)

川崎市「市民100万本植樹運動」



再開発前の暫定利用期間

市民約200人が「ポット苗づくり」に参加、
⇐ 90家族が「苗木の里親」となり2年間苗木を育てる



ポット苗づくりに関わったNPO・市民・団体等で公園の
維持管理運営協議会を立ち上げ、体験の森づくりを推進

植樹から14年、春は芽吹き、秋は紅葉やドングリ拾いが楽しめる四季を感じ癒される“体験の森”になりました



多くの生き物が暮らす “都市の里山（体験の森）”



どんぐりが実るクヌギやコナラを中心とした落葉広葉樹林（都市の里山）が育ち、草花含め221種類の植物、多くの生き物が暮らす体験の森になった。公園の維持管理運営協議会の構成団体であるNPOが中心となり、「自然体験」・「自然学習」の場としての活用を進めてきた。

植樹から3年目「成長観察会」

保育園児「自然遊び&農体験」



土に触れる機会の少ない子どもたちにとって
体験の森は、貴重な自然体験の場です



家族で「森の手入れ・農体験・自然遊び」世代間交流の場



幼児から中学生まで異年齢の子どもたちの交流の場

お手伝いの後はご褒美をいただき交流



芋汁で収穫を喜び合い交流

子どもたちは作業を通して花や草に集まる虫や土の中に棲む虫に興味を持つなど、自然の学びの場となっている

子どもたちの自主性や協調性、社会性を育む場



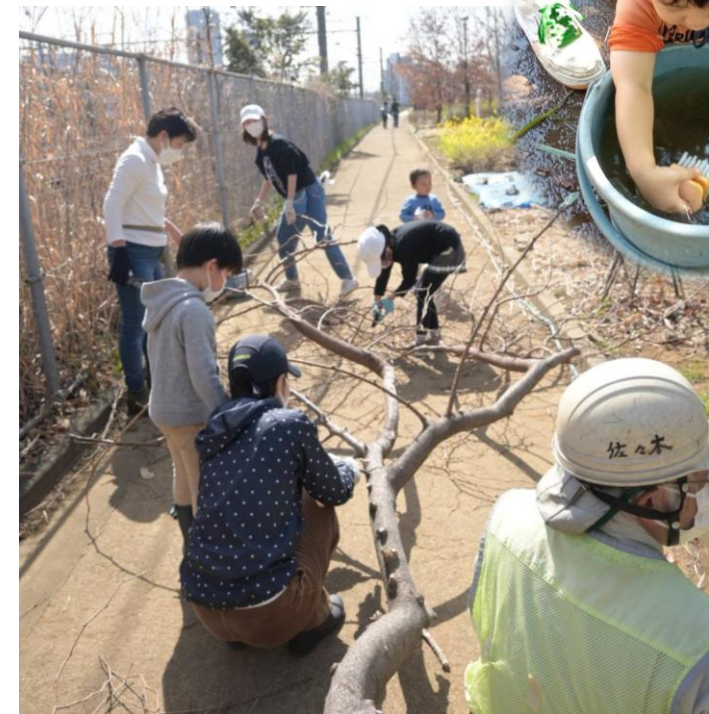
子どもたちは積極的にお手伝い



「自然の循環」を学ぶ場



刈った草は堆肥場へ運ぶお手伝い



⇐伐採や剪定した枝は支柱や柵等に活用



手作り堆肥の完成、土作り、野菜を育てます



自然と暮らしのつながりを実感する体験



← 藍を育て、生葉で“たたき染め”体験
昔から藍の葉は、薬草や染めの原料に活用



ほうき草を育て、子どもの“ほうき作り”



← 「どんぐり染め体験」



他に「山野草摘み&薬効を学ぶ」
「干し柿作り」、「くるみ割り」など



「環境学習会」都市の中に創られた里山を探検しよう



捕まえたのは日本ミツバチ



専門家と一緒に、子どもたちの好奇心を育む場



課題：都市の里山の価値を、共有し継続体制づくり

これからのまちづくりは、

持続可能な社会環境への意識を高め、大人な子どもも、心のストレスを和らげバランスをとって健康で生きていけることが、重要なテーマ

これまでの取り組みから、都市の里山(体験の森)の価値は、緑地としての価値だけではなく、子どもの成長、世代間交流、生物多様性、地域コミュニティの再生といった質的な価値として、より多くの人と共有し、継続的な体制づくりを進めていくことが課題です。

そのためには、地域の資源とのつながりをさらに深めて、ひとり一人ができること、やりたいことを活かして、都市の里山(体験の森)を楽しみながら育て、魅力的なまちづくりを進めていきたいと思っています。

また、専門家との協働により継続的な生態系調査を行い、多くの生きものが暮らせる持続可能な環境へと学びながら、都市の里山(体験の森)を育て、次世代へとつなげていきたいと思っています。